

千布に住む源蔵という者が、金立山への道を知っているとしました。どこにあるかわからない不老不死の薬を探すためには、少しでも道に知った者がいれば心強いので、徐福は源蔵の案内で山に入ることにしました。

百姓源蔵屋敷は田の一角にありました。現在その場所を特定することはできませんが、徐福を案内した記念に庭に植えたという松（源蔵松）が残っている辺りとも言われています。



源蔵松（佐賀市金立町）



阿辰観音（佐賀市金立町）

源蔵には阿辰（おたつ）という美しい娘がいました。徐福が金立町に滞在中、阿辰が身の回りの世話をしていましたが、やがて徐福を愛するようになりました。徐福は金立山からもどつたら、「5年後にまた帰ってくるから」と言い残して村を去ったのですが、阿辰には「50年後に帰る」と誤って伝わってしまいました。これを聞いた阿辰は悲しみのあまり入水してしまうのです。村人はそんな阿辰を偲んで像をつくり、阿辰観音として祀りました。



徐福はいよいよ金立山に入ることになりました。（源蔵の案内とされているが、金立山麓に住んでいた八百平の案内という説もある）金立山の木々をかき分けて不老不死の薬を探しましたがなかなか発見することはできなかったようです。



金立山（標高 502m）



山頂までは車道がある

また、教育キャンプ場からの登山道もある